



施政方針

平成27年度の町政の方向を決める町議会3月定例会議は3月6日から17日まで開かれました。定例会議初日の6日、鈴木重男町長はまちづくりの重要施策について、力強く施政方針を述べました。その内容を紹介します。

葛巻町60周年を迎え

さらに一歩先ゆく取り組みを

各分野の施策は「人口減少」という課題をいかに解決していくかの取り組みであり、まちづくりでありました。

特に、企業の誘致、雇用の確保が厳しい環境にある当町では、昭和50年代以降、地域資源に着目した内発型の産業・雇用の創出は、町の基幹産業である酪農・林業の振興に大きな活路を見出すとともに、交流人口の増加、「食料・環境・エネルギー」など地球規模の課題に対しても大きく寄与してきたところであります。

中山間地の厳しい環境の中で、苦難に屈することなく、歴史・風土・文化を築き上げてきた先人のたゆまぬ努力があったからこそ、今、私たちは「山村のモデル」の町となるべく、誇りを持って新たな取り組みを進めることができていると、この50年間、

人口の流出と出生数の低下は歯止めがからず、町の人口は、昭和36年のピーク時と比較し半分以下にまで落ち込み、高齢化率は40%を超えております。さらに前岩手県知事の増田寛也氏が座長を務めた地方創成会議による試算では、さらに人口は減少し続け、30年後には現在の半減となり、住民の2人に1人は65歳以上の高齢者が占めるとまで言われております。

一方で、人口減少、少子高齢化の問題は、日本全体の大きな問題となっており、国においては、地方経済の活性化、人口減少問題に取り組むための「地方創生」としまして、「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」「東京一極集中の歯止め」「地域の特性に即した地域課題の解決」の3つの視点を掲げ、「魅力あふれる地方を創生」する

模の課題である「食料・環境・エネルギー」に積極的に取り組み、山村にある力・魅力を全国に情報発信することで、都市と山村が役割を尊重し合い、絆と交流を深め「誇り」に思える山村のモデルとなる町を目指し、

としています。その具体の取り組みとして、『しごと』『ひと』を呼び『ひと』『しごと』を呼び込む好循環を確立し、それを支える『まち』に活力を取り戻すため、国は人口の将来展望を示す「長期ビジョン」と5カ年の「総合戦略」を策定したところであり、都道府県・市町村では「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を平成27年度末までに策定し実行することとされております。

町では、この60年、幾多の困難を住民の皆さんと共に乗り越え、培ってきた経験と実績をさらに発展させ、町民と行政が一体となった他にはない「葛巻らしい」一歩先ゆく取り組みを実践していくことで、30年後も、50年後も住民の皆さんが、この町に誇りを持ち、この町に住んでいて良かったと思える、葛巻にしていただきたいと考えております。

まちづくりの3つの重点施策

私は、東日本大震災後の平成23年8月、多くの町民の皆さまからご信任を賜り、2期目の町政を担当させていただきました。現在に至るものでありますが、その任期も残すところ、あと5カ月あまりとなりました。

これまで私は、「町民が一体となった光り輝くまちづくり」を基本理念に、まちづくりにおける3つの重点施策を掲げ、町民の皆さんと共にさまざまな事業に取り組んでまいりました。

【重点施策1】

安心して住み続けたいまちづくり

町民が、安全に生活を送ることが出来る基盤の充実と、過疎の進行で懸念される医療、交通、買い物などの問題に取り組み、「安心」して暮らせる町、お互いの立場を尊重し、支え合い絆を深めること

で「住み続けたい」と思える町を目指し、

▼情報通信基盤の充実・拡充

▼葛巻病院の改築に向けた取り組みや常勤医師の確保

▼町内バス路線の増便対策と一律100円化

▼江川簡易水道の整備事業と町内全域における水洗化の普及・助成

▼地域安心生活支援員の設置などに取り組み、町民の皆さまからも評価をいただいているところでもあります。

また、特に大型事業であります葛巻病院の改築については、平成27年度中に本体工事を着工させ、早期の完成を目指します。

【重点施策2】

夢のあるまちづくり

若者が定住できる生活環境の構築や各世代のニーズに応じたサービスの充実を図ることで、生活にゆとりをつくり「夢」を持って活動できる町を目指し、

▼葛巻小学校屋内プールをはじめとした施設などの整備

▼乳幼児・児童生徒の医療費助成の拡充

▼保育料の年長児・第3子以降の無料化

▼幼児バイオリン教室の開催

▼若者定住住宅の整備、新婚ライフサポート事業、若者雇用助成制度

▼一流のスポーツ・芸術へ触れる機会の創出

など、次代を担う子どもたちにもさまざまな経験ができる機会の提供や、後継者・子育て世代的な経済的な負担軽減に努めてきたところであり、若者世代の定住を促すため、さらに施策を充実してまいりたいと考えております。

また、平成27年度には、町民が「夢」を持って活動できる拠点の一つ、総合運動公園多目的グラウンドの人工芝化、陸上走路の全天候型改修が完了しましたので、さらに一流のスポーツに触れる機会を増やしていきたいと思っております。

【重点施策3】

誇りを持ってまちづくり

地域資源を活用し、地球規模

の課題である「食料・環境・エネルギー」に積極的に取り組み、山村にある力・魅力を全国に情報発信することで、都市と山村が役割を尊重し合い、絆と交流を深め「誇り」に思える山村のモデルとなる町を目指し、

▼新エネルギー等導入助成の充実

▼公共施設などの無停電化

▼6次産業化・商店等設備更新助成などをはじめとした産業振興策

▼町産材の利用促進

▼新葛巻酪農構想の推進

など、地域資源を有効に活用したさまざまな取り組みは、先進事例として高く評価されております。

今後は、山村だからこそできる「安全で安心な」農畜産物などの生産拠点として、地域資源の高付加価値化や、魅力をより一層高めることで、交流人口の拡大はもとより、移住定住人口の増加を図り、町に活力とにぎわいを創出してまいります。



町小中学校連合音楽会でバイオリン演奏を披露した保育園年長児（昨年10月、葛巻小体育館）

まちづくりの施策

本町のまちづくりは、地域産業を振興し、いかにして人口流出・少子高齢化に起因する人口減少に歯止めをかけるかが、長年の課題でありました。

これまで、さまざまな分野において、多様化する住民ニーズに呼応し、施策を進めてきたことで、一定の成果を上げてきましたが、日本全体の人口減少が危惧される中、今まで以上に人口減少問題に取り組んでいく必要があります。

平成27年度は、国の総合戦

略がスタートし、本格的に地域経済の活性化・人口減少問題の解決に向けた取り組みが行われていくことから、町において、これまでの施策の拡充のほか、新たな施策の展開などにより、「安心して住み続けたいまち」としての環境を整え、移住者・定住者の増加を図りたいと考えております。

そういった中、平成27年度に「まち」「ひと」「しごと」に関連し取り組む主な事業としましては、

▼葛巻高校山村留学制度、看

護職員等養成修学資金貸付制度などの創設による**人材育成・確保対策**

▼新葛巻型酪農構想の事業化、くずまきブランド化の促進、乳製品加工施設整備に向けた調査、商店等設備更新支援事業の拡充などによる**地域産業の振興**

▼各世代まで対象を上げた雇用促進奨励金、定住促進住宅の整備などによる**移住定住対策の推進**

▼若年層を対象とした交流事業、外国人向け観光パンフレット作成などの**交流人口**

拡大に向けた取り組み

▼医療費助成の高校生までの拡大、マタニティライフサポート助成の創設、保育園年長児・第3子以降の保育料無料化の継続などによる**子育て支援の充実**

などありますが、これからの人口減少対策は、町はもちろんのこと、国・県、さらには移住・定住者の受け皿となる地域が連携・協力し、総力を挙げて取り組んでいく必要があると考えております。

施策1 健康で快適に暮らせるまちづくり

■保健・医療の充実

各種検診、保健サービス活動の一層の充実と、常勤医師の確保対策、高齢化社会に対応した医療サービスの拡充などにより、保健・医療・福祉と

の連携による総合的な地域医療体制の確立に努めます。

《主な事業》

▼地域医療の中核施設となる葛巻病院の早期着工・完成と医療機器の充実

▼これまでの特定健診・健康診査に、糖尿病予備群の早期発見、塩分摂取量の項目を新たに追加

▼脱・脳卒中を目指し、減塩料理本を作成し、全戸配布

▼健康の推進、病気の早期予防・発見などのために、保健事業実施計画を策定

▼看護師などの医療技術職の人材確保のための、看護職員等養成修学資金貸付制度

の創設

■福祉の充実

社会福祉協議会などの福祉団体やボランティアグループ、保健・医療、教育機関との連携を密にしながら、町民と行政が一体となり、相互協力のもとで、地域における支え合い活動を推進しながら社会参加や自立の助長を促し、高齢者・障がい者などが地域で安心して暮らすことができる地域福祉社会の実現に努めます。

よる見守り活動

▼町外の医療機関で治療を受ける必要がある障がいを持つ方に対する通院交通費の一部助成

▼訪問診療用機器を整備し、在宅医療・介護サービスの充実

▼子育て環境の充実

少子化、核家族化が進行する中、女性が安心して子どもを産み育てられる環境の整備に努めるとともに、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、子育て世代の経済的負担の軽減や地域社会全体で支え合う子育ての推進に努めます。

《主な事業》

▼乳幼児・児童生徒の医療費助成を中学卒業から高校卒業までに拡充

▼生活環境の整備

ごみの減量、リサイクルを通じて、将来まで持続可能な

▼保育園における年長児と第3子以降の保育料の無料化を継続

▼県平均並みの普及の早期実現を目指し、水洗化普及支援事業費補助金の継続と拡充

▼簡易水道事業の法適用化へ向けた移行業務

▼県平均並みの普及の早期実現を目指し、水洗化普及支援事業費補助金の継続と拡充

施策2 地域で支え合うまちづくり

■防災対策、消防・救急体制の充実

近年、地震・風水害など、不測の自然災害が発生しやすい

状況下において、災害の未然防止および応急体制の確立と町民の防災意識の高揚が求められています。

こうした中、あらゆる災害に迅速かつ的確に機能するため、消防施設・装備の充実強化を図るとともに、消防団員

の確保、自主防災隊の活動支援など、地域ぐるみの消防防災体制の確立を図り、安心して暮らせるまちづくりに



3月17日に行われた葛巻高校合格発表。山村留学生1人を含む47人が合格した



早期着工・完成に向け用地整備が進められている葛巻病院の建設予定地



各地区で開催されている減塩料理教室。塩分測定器で濃度を確認しながら調理を行います



平成5年度に整備された清掃センター（元町）。施設の延命化に向けて大規模改修を行います

努めます。

《主な事業》

- ▼消防団活動用装備品の充実
- ▼新たに消防団員確保対策に向けた助成金の交付

- ▼自主防災隊の活動用備品の整備
- ▼消防団第3分団、第4分団の消防ポンプ自動車更新

※消防車両の定期更新は第6

分団を残すのみ。

■交通安全・防犯対策の充実

高齢化に伴い全国的に高齢者が事故・犯罪に巻き込まれるケースが急増していること

もに、情報化社会や交通環境の進展に伴い、犯罪が広域化・多様化・複雑化していることから、指導と啓発活動の充実

施策3 環境を守り育てるまちづくり

全

■自然環境・水資源・町土の保

生活水準の向上や産業活動などの進展、あるいは広域化・局域化する不測の災害などから、町の持つかけがえのない財産である自然環境を守るため、森林が持つ公益的な機能

がより高度に発揮されるよう整備・拡充に努めるとともに、町民の安全確保を図るための治山・砂防施設の充実に努めます。

新エネルギーの積極的な推進と拡充を図るとともに、災害発生時の拠点となる公共施設に再生可能エネルギー設備の導入を図ります。

《主な事業》

- ▼社会体育館、小中学校への太陽光発電設備・蓄電池の導入
- ▼役場駐車場における電気自動車用急速充電器の運用開始
- ▼改築する葛巻病院への自立・分散型エネルギー供給設備の導入

■地域エネルギーの活用

町の持つ豊かな地域資源を活用した風力発電や畜ふん・木質などのバイオマスなど、

ら、効率的で収益性の高い農業の確立に努めます。

特に、基幹産業である酪農については、将来を見据えた、ゆとりある生産性の高い経営

また、担い手への農地の利用集積を図るとともに、後継者や新規就農者の育成に努めます。

施策4 資源を生かした産業を推進するまちづくり

■農業の振興

地域の特性を生かした安全で高品質な農畜産物の生産を促進し、環境と調和した持続可能な生産体制を確立しながら

《主な事業》

- ▼経営所得安定対策の推進
- ▼菜種などの地域振興作物の栽培奨励・生産拡大と循環型農業の推進
- ▼農地中間管理機構との連携による農地の利用集積と耕作放棄地の解消
- ▼粗飼料自給率の向上による足腰の強い畜産基盤の確立と原発事故に係る牧草地の除染対策

し、森林とふれあう機会の拡大や、林業の担い手の育成と地域資源である森林の保全と活用に努めます。

《主な事業》

- ▼町産材の安定供給体制の構築と利用拡大
- ▼森林保全特別対策事業の実施
- ▼林道鰻沢線の排水路整備
- ▼林道安孫・平糠線など5路線の県代行事業の実施
- ▼星野地区の治山ダム工事と上外川地区の保安林整備の実施

《主な事業》

■農林産物加工の振興

安全で安心な高品質の原料を加工することで付加価値を高め、商品の充実と販路の拡大により、消費者から高い支持が得られる「くずまきブランド」の定着を促進します。

また、地域資源や特性を生かし、農業、観光など他産業との連携を促進し、地場産業の振興と活性化、企業誘致など、若者が定住できる環境の構築に努めます。

《主な事業》

- ▼中小企業向けの資金融資料子の補給制度の創設
- ▼商店等設備更新支援事業、くずまき型持続可能な産業づくり支援事業の助成内容、対象事業の拡大
- ▼観光の振興

《主な事業》

- ▼若年層の旅行需要喚起と移住のきっかけづくりとして「くずまき「ミワク」の町交流事業を展開
- ▼急増する外国人の誘客と受け入れ態勢の整備を図るため、外国人観光客向けの観光パンフレットなどの作成
- ▼都市部の観光客ニーズに対応するため、くずまき交流館プラトリーのトイレ洋式化
- ▼ふれあい宿舎グリーンテージの長寿命化改修に向けた調査業務

■林業の振興

公益的機能が発揮できる森林整備を進め、森林資源循環を重視した林業経営を推進するため、森林整備事業への町単独の嵩上げ補助や林道・作業路網の整備を促進するとともに、地場産材の利用促進・流通拡大に努めます。

《主な事業》

- ▼乳製品加工施設の整備に係る調査事業
- 商工業の振興

経営者の高齢化、後継者不足などが続くとともに郊外型

《主な事業》

- ▼各年代の雇用を促し、移住・定住しやすい環境を構築するため、雇用促進奨励金の対象を拡大

また、都市との交流を促進

また、省エネルギー対策をはじめ、エネルギー問題に対する町民の意識の高揚に努めます。

また、担い手への農地の利用集積を図るとともに、後継者や新規就農者の育成に努めます。

《主な事業》

- ▼雇用機会確保



毎年、企業の森で開催されているトリプル薪フェスタ。林業の担い手育成と森林保全に努めます



町のホルスタイン共進会で出品牛をリードする未来の酪農家たち。新葛巻型酪農構想の事業化に向けて取り組みを進めます



くずまき高原牧場の太陽光発電設備。地区センターや学校など、公施設への設置を進めます



昨年、全国消防操法大会初出場した第14分団。消防団員の確保に向け、各分団に対して助成金を交付し、活動を支援します

施策5 人と文化を育むまちづくり

■教育の充実

児童・生徒一人一人の特性や地域の実態などを把握し、「知・徳・体」の調和のとれた教育と、自ら学ぶ意欲と生きる力を育み、基礎的・基本的な学力の定着、体力・運動能力の向上を図るため、児童館、認定こども園、保育園、小学校、中学校、高校の連携を推進するとともに、教育施設の充実・強化に努めます。

また、子どもたちが、将来の夢を持つ機会を創出と支援の充実を図ります。

続

- ▼老朽化が激しい、江刈小学校校舎の改築工事
- ▼耐震上問題のある教育施設の補強工事
- ▼葛巻高校山村留学の受け入れ体制の構築
- ▼葛巻高校存続と魅力ある学校づくりに向けた支援
- 生涯学習の充実
- ▼町民一人一人の学習ニーズや目的に応じた学習を推進し、生涯にわたり、あらゆる機会・場所において学習でき、その成果を活かすことができる機会の創出に努めます。
- ▼また、中高年者が持つ知識や経験、技術などを地域に還元

元でできる環境を整え、地域文化や伝統・芸能などを、次の世代へ継承していくための取り組みや、活動成果を発表する場の拡充などを支援します。

■生涯スポーツ・レクリエーションの推進

町民が生涯を通じ、スポーツ・レクリエーションに親しみながら、健康増進と体力向上に主体的に取り組むことができるよう、指導者の養成やスポーツ教室の拡充を図るとともに、新たな生涯スポーツの推進策として注目されるスポーツ・ツーリズムなどを通じ、積極的なスポーツ交流を展開し、活性化に努めます。

- ▼町民が生涯を通じ、スポーツ・レクリエーションに親しみながら、健康増進と体力向上に主体的に取り組むことができるよう、指導者の養成やスポーツ教室の拡充を図るとともに、新たな生涯スポーツの推進策として注目されるスポーツ・ツーリズムなどを通じ、積極的なスポーツ交流を展開し、活性化に努めます。
- ▼また、平成28年度に開催される「希望郷いわて国体」正式種目の軟式野球競技、デモンストレーションスポーツのネオホッケー競技の会場地として、施設の改修と受け入れ体制の充実を図ります。
- 《主な事業》
- ▼2年目となる総合運動公園多目的グラウンド改修の早期完成と記念事業の実施
- ▼希望郷いわて国体軟式野球競技の会場となる総合運動公園野球場の改修事業
- ▼希望郷いわて国体葛巻町実行委員会の活動支援

施策6 交流を広げ、誇りを持って情報発信するまちづくり

■交通・通信ネットワークの整備

住民の暮らしの利便性、安全性、快適性の向上と豊かな生活環境を創造し、地域の活性化を支援するため、幹線道路網と生活関連道路網の整備促進に努めます。

また、少子高齢化などにより、全国的に路線バスの利用

者が減少傾向にある中、町民の利便性の確保と負担軽減をしつつ、効率的なバス運行により、生活路線バスの維持に努めます。

情報化社会が進展する中、当町においてはケーブルテレビをはじめとした各種情報通信基盤が整っていることから、各分野における利活用策の検

討をさらに進め、効率的・効果的な運用に努めます。

《主な事業》

- ▼町道茶屋場田子線、町道愛羅瀬線、町道町裏線、町道葛巻浦子内線の改良事業
- ▼土谷川地区の携帯電話不感

地域の解消

▼主要観光施設、体育施設への公衆無線ネットワークシステムの整備

■交流、連携の推進

▼少子高齢化、人口減少が進行する中、町が持っているさまざまな地域資源を生かした良さを積極的に情報発信しながら、都市部との交流を推進するとともに、住環境、雇用、助成制度など定住希望者のニーズを的確に捉え、地域と連携した移住・定住者の受け

入れ環境の構築をさらに強化します。

《主な事業》

- ▼中心市街地における交流拠点整備に向けた調査業務
- ▼移住・定住者の受け入れを促進するための住宅整備

施策7 協働のまちづくり

人口減少や高齢化などにより、地域活動の停滞と活力の低下が懸念される一方で、社会情勢や意識の変化に伴い、住民ニーズが高度化、多様化してきており、町民が協力し合いながら地域の課題解決に

向けた取り組みに対する支援を強化します。

また、地域活動の拠点となるコミュニティ施設の老朽化対策、設備更新、周辺環境整備につつましても、計画的に進められるよう検討します。

《主な事業》

- ▼星野生活改善センターの水洗化工事、象鼻会館トイレの洋式化工事
- ▼地区センターなど駐車場の舗装工事

■結びに

平成27年度は、町総合計画基本構想、過疎地域自立促進計画、辺地総合整備計画の最終年度であるとともに、国の地方創生に対応する「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定を進めなければなりません。

このほか、平成28年1月から、順次、社会保障、税、災

害対策の分野における行政手続において、効率的に情報を管理し、複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であることを確認するために

内容の充実・拡充などを検討し、さらに一歩先ゆく取り組みができるよう、職員一人一人が行政のプロとして取り組んでまいりたいと思います。

スタートするマイナンバー制度に向けた取り組みなど、新たな施策にもしっかりと対応していくとともに、震災復興支援、ふるさと納税の推進など継続事業につきましても、

今を生きる私たちは、先人が苦難を克服し築き上げてきた歴史・文化・風土などを守り、さらに発展させ、次の世代を生きる町民が幸せを実感できる確かな未来を築く役割を

担っております。

平成27年度は、これまで町民の皆さんと積み重ねてきた60年の歩みを共に祝い、「今をつないで未来へ」をキャッチフレーズに、一歩先ゆく山村として、各種記念事業や新たな取り組みなどを展開し、一年間を通して60周年を町民の皆さんと共に盛り上げてまいります。



下町地区の定住促進住宅。移住・定住者が暮らしやすい環境をつくるため整備を進めます



陸上用トラック舗装や人工芝化など、総合運動公園多目的グラウンドは高い競技性能を備えた競技場に生まれ変わります



昭和38年度に建設され、老朽化が激しい江刈小学校校舎の改築工事を行います

